

# 原 敬人 略歴

1935年(昭和10年)6月23日、原十一、マシノの七男三女の三男として福岡県久留米市に生まれる。兄2人を戦争で亡くし、久留米商業高校に通いながら、競輪選手となり10人家族の生活を支える。24歳で、アキ子と結婚し長男充宏、長女邦子を授かる。何事にも全力で取り組み、最後までやり遂げる努力家でした。選手時代は、早朝からのトレーニングを欠かさず、雨の日は自宅トレーニングし、晴れの日は自転車で脊振山まで登りました。自己管理に努め若手選手の育成に力を注ぎ、選手会の役員として競輪会のイメージアップに努めました。

趣味は、読書、釣り、洋画鑑賞。初孫が生まれた1990年、55歳で選手を引退。花を育てたり、高校時代の友人たちと旅行に出かけたり、4人の孫娘に囲まれ穏やかな老後を過ごしました。

2022年4月17日(イースター) 洗礼を受ける。  
2023年4月15日 平安のうちに召天。享年87歳

*Christ*  
is with you!



2022年4月17日 洗礼式



月下美人や芍薬など沢山の花を育てました

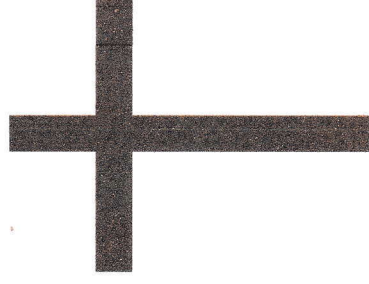
2022年12月25日

清水牧師とクリスマス賛美礼拝にて  
(えーるピア久留米)



# 召天式

*Celebrating the life of Takato Hara*



2023年4月15日 召天

故 原 敬人 兄

2023年4月18日 12:00

会場 荒木草苑

# 召天式

司式 清水 誠一

奏樂 矢野 博子 (チェロ)

立部 邦子 (賛美/ピアノ)

立部 愛香 (ピアノ)



前奏

J.S.Bach カンタータ BWV 156

開式の詞

牧師 清水 誠一

賛美

賛美歌312番 「いつくしみ深き」

故人紹介

父を偲んで 長男 原 充宏

祖父を偲んで 孫 立部 百合香

賛美

聖歌645番 「父の神がわれら」

祈祷

聖書朗読

マタイによる福音書 7章7節

コリント人への手紙第一 15章3～4節

説教

牧師 清水 誠一

挨拶

求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。 (マタイ7章7節)

私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたことです。

(コリント人への手紙第一 15章3-4節)

## 賛美歌312番 「いつくしみ深き」

1 いつくしみ深き 友なるイエスは  
罪とが憂いを とり去りたもう  
ころの嘆きを 包まず述べて  
などかは下ろさぬ 負える重荷を

2 いつくしみ深き 友なるイエスは  
われらの弱きを 知りて憐れむ  
悩みかなしみに 沈めるときも  
祈りにこたえて 慰めたまわん

3 いつくしみ深き 友なるイエスは  
かわらぬ愛もて 導きたもう  
世の友われらを 棄て去るときも  
祈りにこたえて 労わりたまわん

## 聖歌645番 「父の神がわれら」

1 父の神がわれら 信仰してゐる民に  
備えられたすまい そこにわれらは行く  
やがてわれら きよい向こう岸で  
ともに手をば とりてよろこびあおう

2 青い空に雲の かけらすらも見えず  
そこでわれら声を あわせて歌 歌おう  
やがてわれら きよい向こう岸で  
ともに手をば とりてよろこびあおう

3 救い受けたわれら み恵みの数々  
父の神の前で ひろげよう感謝もて  
やがてわれら きよい向こう岸で  
ともに手をば とりてよろこびあおう



原 敬人と申します。昭和十年生まれ、今年で八十七歳になります。

五十五歳まで競輪選手をしておりました。父が日本自転車競技会の理事をしていた関係で、子どもの頃から自転車に親しんでおりました。競輪選手になって、北海道から九州まで各地の競輪場を転戦し、家にいたのは月の半分くらいでした。多くの優勝経験がありますが、佐賀の武雄競輪場で優勝したことが一番の思い出です。その日に、娘の邦子が生まれたからです。最後の優勝は、広島でした。

私は、勝負とかけひきの中で、人生を生きてきました。宗教の話聞いて信じるような者では、ありませんでした。娘の邦子がクリスチャンになり、教会に行くようになって、クリスチャンの督成さんと結婚したので、私も何回か誘われて教会に行きました。そのときは、信じたいとは思いませんでしたが、心の中では天地万物を造った本当の神はいるのだろう、と信じていました。

昨年五月に、家の起工式がありました。娘夫婦と一緒に住もうと言って来て、自宅を建て替えることになったのです。その起工式は、キリスト教式で行われました。そのときから、本当の神様が自分たちを見てくれていて、祝福してくださるという気持ちになってきました。

十一月に家ができて、十二月に完成感謝式をかねてクリスマス礼拝が、わが家で行われ、教会の人たちが集まってくれました。私は起工式のあと、歩くのも不自由になっていましたが、この礼拝にはぜひ参加したいと思いました。清水先生の話は、イエス様の生まれたときのことでした。本当に神が人となって来られたと確信してゆるがない、この人たちの言っていることは真実だ、と思いました。礼拝のあと、清水先生から「イエス様をご自分の救い主として信じますか」と尋ねられ、私は「はい、信じます」と答えました。

それから、洗礼準備会が始まりました。聖書をこれまで読んだことがないし、今は目も不自由で自分で読むこともできません。清水先生が自宅を訪問してくださり、一回一時間、五回にわたって、聖書の教えを説明してくれました。一回目が「神と人」、二回目が「聖書とキリスト」、三回目が「罪のゆるし」、四回目が「確信」、五回目が「希望」というテーマでした。私は信仰を持つような者ではなかったですが、今は、人の言うことを聞いて、真実と不真実を振り分けて、世の中をわたっていかないかん、と考えが変わりました。

洗礼準備会の最終回、清水先生から感想を聞かれて、躊躇している妻に、「信じてください」と頭を下げました。これまで妻には苦勞をかけ、いやな思いもさせてきましたが、神の国でまた会えることを一緒に信じて、残りの人生を過ごしていきます。

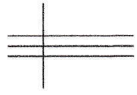


「わたしは、復活であり、命である。

わたしを信じる者は、死んでも生きる。」

ヨハネによる福音書一一章二五節

原 敬人は令和五年四月一五日、八七歳にて与えられた地上での歩みを終え、主によってみもとへと召されました。生前は皆様より温かいお交わりを頂き、故人に代わりまして心より御礼申し上げます。また、本日はお忙しい中をご参列頂き、誠にありがとうございます。私たち遺族を励ましてくださる皆様の上にも、主の祝福と平安が豊かにありますようお願い申し上げます。



久留米市大善寺町夜明九九六

遺族代表 原 アキ子

親族一同

# 新約聖書

新共同訳



国際ギアオン  
協会より贈呈